日本医療福祉生協連近畿ブロック有志
ボランティアセンター　東日本大震災支援ニュース

ＮＯ．６　２０１１年5月１０日　発行担当　神戸医療生協・森

「医療生協がこんなことしてくれるなんて！」被災組合員の驚き

午前中、西垣さん（たじま）は被災した組合員への電話かけ。７日に米など支援物資を届けてまわった時に留守だった組合員からは「医療生協がこんな事までしてくれるなんて、本当にありがたい」」と驚きとお礼の言葉が語られました。

午後には、昨日訪問した花釜区の組合員ら三家族が医療生協槻木事務所で入浴し、支援物資の衣類を持ち帰られました。「ずっと同じものを着たままだったが、着替えることができてすっきりした」と喜んでおられました。

仮設住宅への転居が来週より進むにあたり、様々な要望が出ています

１５日に仮設住宅の説明会が行われ、来週から仮設住宅への転居が進みます。真庭公民館避難所でも１５日には５０人が出て行かれるとのことです。

仮設住宅への引越しにあたって、様々な要望が出ています。

- 通院や買い物の足として自転車がほしい
- 台所用品や調味料を揃えたい
- 食料品や生活雑貨の移動販売をして欲しい
- クロックスが欲しい

また、未だ仮設住宅入居が決まっていない方からは「通院や買い物のために町民バスぐるりん号が全ての仮設住宅を回るようにして欲しい」との声が出されています。

山下駅周辺住民「判断が難しい」「コミュニティーをどう維持するか」

津波により亘理駅以南が運休しているＪＲ常磐線の山下駅前で聞き取り。

避難指示区域として立ち入りが制限されていましたが、４月２７日より立ち入りが許可されており、自宅や店舗の片付けに避難所などから戻ってこられている方の姿が見受けられます。

自治体や国がこの区域を今後、居住可能区域にするのか禁止区域に設定するのかの方針はまだ定まっていません。その中で、住民には住宅を取り壊すか残すかの判断が迫られており、判断をしかねているとの声が出されています。

この地域は仙台への通勤・通学圏であり、ＪＲ

の運休で通勤・通学が困難になっています。そのため、岩沼市の仮設住宅を申し込んだ方もおられます。通学のために岩沼市や仙台市近郊の賃貸住宅を借りて子どもを住まわせている方もいます。町内の常磐線の復旧計画や原発事故による迂回ルートの建設計画をＪＲに早く発表してほしいとの声が出されています。

地域のコミュニティーを維持していくためにも、この地域を今後どうするのかと言う行政判断とＪＲ常磐線の復旧計画の策定が急がれます。

農業の再生も急がれます

山元町はイチゴの産地であり、被災された方の中にも専業農家が数多くおられます。再就職が困難な年齢の方も多い中で、生活の糧である農業をどう再生していくかも大きな課題です。被災農地の塩抜きや土壌改良、営農のありかたなど、被災農家のみなさんの声を聞きながら、国・自治体・農協などが総力を挙げて取り組む必要があります。

（写真は亘理町にて、倒壊したビニールハウス）

支援のありかたは四つに分類が必要

１０日夜のセンター打ち合わせ（西垣・黒田・森）では、今後は四つの分類での被災者支援が必要であることが確認されました。

① 避難所
② 国道６号線から西の坂元地区など、避難指示区域とならなかった浸水地域
③ 避難指示区域となっていた地域
④ 仮設住宅

当面、週末を中心とした近畿ブロックの医療生協からの支援活動では②と③の地域を重視した取り組みを予定しています。今週末の尼崎医療生協からの支援チームは坂元地区での泥だしを中心とした活動、来週末の神戸医療生協からの支援チームは避難指示区域となっていた花釜区での聞き取りや支援物資の配布、泥だしなどの生活支援活動を計画しています。